

◆◆◆ 続々登場！6～7月、ゲストスピーカーのご案内 ◆◆◆

(担当教員：関典子 n-seki@pegasus.kobe-u.ac.jp)

幅広いジャンルの第一人者をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な視点から〈舞踊〉〈身体表現〉の魅力や意義を体感していただきます。
履修者以外の参加も大歓迎のレクチャー&ワークショップ。奮ってご参加ください！（※ワークショップは動きやすい服装でご参加ください。）

I. 「殺陣ワークショップ ～筋肉痛のススメ～」

【日時】6月5日（金）10：40～12：10（※13:00頃まで延長の可能性あり）

【教室】体育館 【科目】金2限「発達科学演習」

【講師】佐野功（俳優・殺陣師）

桜美林大学文学部総合文化学科パフォーマンス・演劇コース卒業。つかこうへい、平田オリザらに師事。俳優として劇団「柿喰う客」などに出演する他、殺陣師として振付・指導も行い、演劇的要素を加えたオリジナル・メソッド・ワークショップを展開中。昨年2月、コンテンポラリーダンスと殺陣のコラボレーション作品『犯情』（共演：関典子）を発表し、好評を博した。

【内容】舞台や映画などでの闘いのシーン。それを細分化し、演劇のために再構成した極めて安全な「殺陣/アクション」のワークショップです。芝居ありきのアクションにこだわり、根性論を用いない非常に論理的な指導法は、業界の中でも異色。自分の身体をフルに活用した素手での立ち回りを行います。

III. 「特殊な身体による舞踊表現 ～暗黒舞踏&劇団態変を例として～」

【日時】6月16日（火）15：20～16：50

【教室】B203 【科目】火4限「臨床舞踊論」

【講師】上念省三（評論家・プロデューサー）&「劇団態変」メンバー

上智大学文学部卒業。1991年頃から演劇、現代美術の評論を始め、「JAMC」「現代詩手帖」「宝塚アカデミア」などに公演評やインタビュー記事を寄稿。阪神・淡路大震災の体験を基にした「風景が壊れている、そして私も…」は筑摩書房の高等学校現代文教科書に収載。コンテンポラリーダンス、宝塚歌劇、小劇場演劇の評論を中心に活動し、「ダンスの時間」公演のプロデュースも行う。

【内容】〈衰弱体〉を意識化することで固有の美を見出した土方巽の「暗黒舞踏」、〈障害〉を〈表現力〉に転じ、未踏の美を創り出す」という着想のもと、身体障害者自身が演出・出演する劇団として1983年より大阪を拠点に活動を続けている「劇団態変」など、貴重な映像を多数ご紹介いただきます。

II. 「コンテンポラリーダンス・ワークショップ ～斉藤誠の世界～」

【日時】6月15日（月）17：00～18：30

【教室】体育館（or F164-1） 【科目】月5限「身体表現論」

【講師】斉藤誠（振付家・ダンサー）

斉藤 DANCE 工房主宰。演劇を経て1977年よりダンスを始める。アメリカ研修後、1984年から自作を発表。2000年「ローザヌ国際バレエコンクール」スカラシップ受賞者3名への指導など、その指導法には定評がある。2005～2006年「ザ・バレコン福岡」審査員。先月『黄昏れる砂の城』（出演：ヤザキタケシ、関典子 他/今年11月に再演予定）を発表、好評を博した。

【内容】演劇、バレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスなど、幅広いジャンルの振付・指導・出演で活躍されている斉藤誠氏によるダンス・ワークショップです。初心者の方も大歓迎。普段は意識しないような身体感覚に耳を澄ますエクササイズや、振付法などを体感していただきます。

IV. 「舞踏レクチャー&ワークショップ ～呼吸体・虚の身体～」

【日時】7月7日（火）15：20～16：50

【教室】F164-1 【科目】火4限「臨床舞踊論」

【講師】由良部正美（舞踏家・スペースALS-Dディレクター）

1982年、舞踏グループ「東方夜總會」を退会後、ソロダンサー、振付・演出家として活動を開始。海外での招聘公演も多数。舞踏クラスやワークショップを行いながら、他の身体技法や身体観との相対化の中で、新たな舞踏の血脈を探究中。2007年7月から京都・西陣にて、芸術と地域や医療を繋ぐ場として、劇場兼稽古場の「スペースALS-D」を始動し、新たな展開を迎えている。

【内容】ALS（筋萎縮性側索硬化症）によって声と手足の機能を失いながらも、自薦ヘルパーによる24時間態勢の介護で独居生活を実現している患者（甲谷匡貴さん）の生活の場に併設された「スペースALS-D」。その発足の経緯について、由良部氏の舞踏観やワークショップを通して語っていただきます。